

あの地震がおこってがら

柏崎市立高柳中学校 一年 小林 悠生

その日はいつも通りの一日だった。あの地震が起こるまでは。あの時ぼくは、いとこと遊んでいた。揺れてるな、と思った。次の瞬間ドーンという音とともに家全体が激しく揺れた。家具などが落ちたり倒れたりした。ぼくは、すぐこたつにもぐりこんだ。しばらくして揺れがおさまった。電気がつかない。停電していた。暗闇の中ぼくはじっとしていた。

しばらくしたらおじさんが来てみんなが外に出た。ぼくは、おじさんといっしょにとなりの家の人を見に行った。二軒ともだいいいようぶで安心した。車の中でラジオを聞いていた。その時大きな余震が来た。とても怖くてびっくりにした。その夜はテントで夜を過ごした。しかし、繰り返してくる余震が怖くて寝付けなかつた。

次の日、ぼくは余震で目が覚めた。家に入ると見ると本棚や食器棚などが倒れてメチャ

クチャになつていた。自転車に乗り友達を見
に行つた。友達もぶいでもよかつた。その日
は昨日あんな地震があつたのにと遊んで思
う。

その次の日は、学校に行つた。教室が危険
なので移動していた。朝、高学年だけで一番
被害の大きかつた図書室を見せてもらつた。
本棚が倒れて本がちらばつていた。電灯も落
ちそうになつていた。その他にも様々な被害

があつた。地震のあつた次の日から車の数が
急に増えた。遠くからの車もあつた。たく士
人の人がもつと被害の大きかつた所を取りに
行つてゐるのかなと思つた。

ほくはこの地震で地震の怖さを初めて知つ
た。もうこんな地震はほこつてほしくない。
この思いは、一年たつた今でも同じである。